

極楽映像社

米米 CLUB コンサート収録に新“POVCAM”を活用

IP ネットワークで多数の“POVCAM”を集中コントロール
小型・軽量の運用性を継承しながら大幅な画質向上で信頼感アップ
収録は数多くのパナソニック製品を中心にシステム構築



(有)極楽映像社は、米米 CLUB の約 4 年半ぶりとなる全国ツアー「おせきはん」で、1 月 9 日～10 日に東京・渋谷区の NHK ホールで行われたコンサート映像の撮影・収録に、パナソニック ポータブルレコーダー“POVCAM”を活用した。同社では音楽ライブをはじめ様々な撮影に“POVCAM”を活用してきたが、今回は 2017 年春に発売した新“POVCAM”を計 15 台使用。小型・軽量・フリースタイルの高い運用性を継承しながら、4K 対応や大幅な画質向上、新たに搭載された IP リモートコントロール機能が、多数の“POVCAM”を使用した収録における効率的な運用に大きく寄与したという。また、舞台の世界観を損なわぬよう、メディカル用途向けの「白い“POVCAM”」も併用した。なお、同コンサート映像の撮影・収録では、“POVCAM”や 4K カメラレコーダー「VARICAM 35」、コンパクトシネマカメラ「AU-EVA1」、プロフェッショナル 4K カムコーダー「AG-UX180」といったカメラのほか、マルチフォーマットライブスイッチャー「AV-HS450N」や放送業務用 LCD モニター「BT-LH910G/1710」、IP リモートカメラコントローラー「AW-RP50」など、数多くのパナソニック製品を中心にシステム構築されたことも大きな特徴となった。

POVCAM



今回の米米 CLUB コンサート収録では合計 15 台の新“POVCAM”が用意され、舞台上の各所に様々なスタイルで設置された

合計 15 台の新“POVCAM”を使用

極楽映像社は、2010 年の横浜アリーナで行われた米米 CLUB のライブで、舞台上の仕込みカメラとして使用して以来、音楽ライブの収録などで“POVCAM”を積極的に活用してきた。

代表取締役／撮影監督の野澤啓氏は「米米 CLUB のライブ収録では、メンバーの数が多いことに加え、そのメンバーが舞台上を激しく動き回るので、舞台上に小型カメラを大量に仕込む必要があります。逆に言えば、米米 CLUB のライブ収録は、“POVCAM”なくして成立しないかも知れません」と語る。

今回のコンサート収録では、2017 年に発売された新“POVCAM”が計 15 台使用され、カメラヘッドをマイクスタンドに仕込んだり、舞台セットにグリップしたり、床に直接ベタ置きした雲台への搭載など、様々なスタイルで舞台上に設置された。

一方、幅広い領域の音楽コンテンツの制作を手がけ、今回の映像ディレクターを担当した(株)ソニー・ミュージックレーベルズ ソニー・ミュージックレコーズ マーケティングルーム（映像担当）プロデューサーの大倉輝高氏は「今回の撮影設計のコンセプトは“いかに楽に沢山の映像を仕込めるか”。ライブの収録では、舞台上に何らかのカメラを仕込みますが、ケーブルが繋がっていない小型アクションカムは“カメラ任せ”になってしまう一方、“POVCAM”はケーブルで接続されているため、自由に動かすことはできない反面、必要に応じてコントロールができるメリットがあります。スイッチャーに出力する映像としても十分な画質を有している“POVCAM”を使って、なるべく沢山の映像を撮りたいと考えました」としている。



極楽映像社
代表取締役
野澤 啓 氏



ソニー・ミュージックレーベルズ
プロデューサー
大倉輝高 氏



新“POVCAM”で撮影された映像は舞台上にある撮影サブベース（写真左）に集められ、一部リモートコントロールによる演出を行った映像などとともに16分割のスプリッターに入力して、舞台下手にある撮影メインベースにIPネットワークを通じて伝送する。メインベースでは16分割ディスプレイに表示された画像を統合管理する。IPネットワークを介して各カメラの画像調整やリモートコントロール操作も可能（写真右）

IP対応で“POVCAM”の存在価値がさらに拡大

今回の収録では、新“POVCAM”の大きな特徴である“IPネットワーク対応”が大きな威力を発揮した。

新“POVCAM”には、IPストリーミング／IPコントロールに対応するLAN端子を装備しており、ネットワークへの映像・音声ストリーミング配信、ファイル転送や外部からのコントロールが行える。

Webブラウザを介したパソコンやタブレット等からのアクセスや、IPコントローラーによる制御も可能で、統合したシステム運用が実現する。

同社では、事前準備として、それぞれの“POVCAM”の色や画質を統一させておくとともにIPアドレスを割り当て、当日は、控え室に設けた撮影ベースで全ての“POVCAM”を管理・調整できる環境を構築した。現場ではLAN接続された各カメラの映像を16分割のスプリッターに入力して、IPネットワークを通じて伝送。撮影ベースにあるモニター上に16分割で表示された映像とIPコントローラーを用いて、個々のカメラの映像を見ながらフォーカスやアイリス、ズームなどをリアルタイムにコントロールする。

野澤氏は「カメラを仕込むこと自体に相当な時間がかかります。今回は特に台数が多かったので、1台ずつ調整していくのは非常に大変ですし、舞台後方や高所などに設置したカメラはオペレーションが難しいので、IPネットワークによる集中コントロールは非常に役立ちました。音楽ライブの収録は“一発撮り”の緊張感がありますが、収録自体はレコーダーのSDメモリーカードで行い、IP経由で各カメラの微調整がリアルタイムにできる便利さを実感しました。また、以前はオートモードで撮影すると自動的に増感されて

画質がザラつくこともありましたが、新“POVCAM”に搭載されたゲインリミットによってゲインを設定できるほか、急な光が入ってきてもIPコントロールで絞りを調整できます。約3時間のライブを舞台上に仕込んだカメラで何が撮れているのかを確認できるメリットはすごく大きい。新“POVCAM”のIP対応によって、確認できる範囲が広がったことで、“カメラ任せ”ではなく、自分の意志で創作できるようになり、“POVCAM”の存在価値がさらに大きくなったと思っています」としている。

白い“POVCAM”を併用、一部では4K/24p収録も

今回の全国ツアー「おせきはん」では、舞台セットが赤と白に統一された世界観となっているため、医療用に特別設計された白い新“POVCAM”（AG-MDR25 + AG-MDC20GJ）が多数使用されているのも大きな特徴となった。

さらに、舞台後方や高所に設置したカメラなど一部の新“POVCAM”では、4K/24p収録も行った。「動きが激しい被写体を捉えるカメラは、パンフォーカス気



舞台の世界観を損なわないよう、医療用に特別設計された白い新“POVCAM”も多数用意された

米米 CLUB コンサート収録に新“POVCAM”を活用

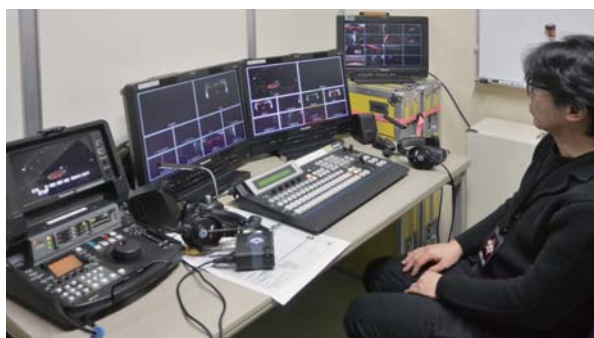


今回の収録では多数の新“POVCAM”に加え、VARICAM 35 や AU-EVA1、AG-UX180 等のパナソニック製カメラが使用された

味にワイドで 4K 撮影しておき、後でトリミングすることでカバーすることにしました」（野澤氏）。

パナソニックの MOS センサー搭載カメラで統一

今回のコンサート収録では、新“POVCAM”× 15 台のほか、AG-UX180 × 6 台、VARICAM 35 × 2 台、AU-EVA1 × 1 台を中心に合計 28 台のカメラを使用している。撮影素材は VARICAM 35 では expressP2 カード、それ以外のカメラは SD メモリーカードにそれぞれ収録していく一方、全てのカメラの映像は撮影サブベースに集約され、オプチカル 8ch の伝送セット（ジークボックス）を介して撮影ベースのスイッチャー「AV-HS450N」に伝送し、大倉氏がスイッチングした映像も別途収録している。



野澤氏は「音楽ライブの撮影は、最低限のクオリティを担保した上で、その時間の中で起きていることを事件的に切り取っていく要素が強いため、それぞれの見せ場をカッコ良く、タイミングよく撮れているかが重要です。今回の撮影では、新“POVCAM”の台数が圧倒的に多いため、全ての色の基準を“POVCAM”に合わせる必要があり、同じ色が出せるパナソニックのカメラを中心に撮影システムを構築しました。加えて、近年ではステージ上で多用される大型 LED ディスプレイの赤や紫などで微妙な色の違いが生じるため、すべて MOS センサー搭載カメラで統一しています」とする。

“POVCAM”はカメラマンのクリエイティビティを提案できるアイテム

極楽映像社では、このほかにも“POVCAM”のメリットを最大限有効に活用した撮影を行っている。

野澤氏は「カメラマンにとって、カメラは“絵筆”であるといえます。“POVCAM”は、カメラマンのクリエイティビティを提案できる手法として持っていたいアイテムの 1 つだと思っています。自分が提案したいクリエイティビティに対して、カメラ側がどのようにアクセスしてくれるのかを、常に楽しみにしています」と話している。

■ 主な使用機器

・カメラ	VARICAM35	AU-EVA1	AG-UX180
	黒“POVCAM” (AG-UMR20/UCK20GJ)		白“POVCAM” (AG-MDR25/MDC20GJ)
・スイッチャー	AV-HS450N		
・モニター	BT-LH910G	BT-LH1710	
・リモートカメラコントローラー		AW-RP50	

AJ-JJR18EVA1 010 UT-PB1